



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

6. ブドウの苗木生産における穂木及び台木の保存方法

[要約]

接ぎ挿し法におけるブドウの苗木生産において、接ぎ木が遅れる場合にはポリフィルムに包んで冷蔵保存した穂木及び台木を用いると、室温で保存したものに比べて挿し床内での生存率が向上し、接ぎ木部のカルスの形成や発根程度も優れる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

ブドウ苗木生産における接ぎ挿し法では、接ぎ木数が多いと穂木及び台木の採取から接ぎ木までに 2～3 か月程度を要する場合がある。この際、苗木生産業者は穂木や台木をブルーシートで包み室内冷暗所で保存することが多いものの、接ぎ木までの期間が長いほど挿し床内での生育が劣ることが多い。そこで、穂木及び台木を 2 か月程度保存することを前提に、保存方法の違いが接ぎ挿し苗の挿し床内での生存率に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 保存期間中の温度は、冷蔵庫内が 3.5～5℃で変動が小さかった。一方、室内は－1～16℃であり、1 日の中でも変動が大きかった（データ省略）。
2. ポリフィルムで包んで保存した穂木及び台木は、保存温度に関わらず、ブルーシートで包んだものと比べて保存後の枝の含水率が高い（図 1）。
3. ポリフィルムで包んで冷蔵保存した穂木及び台木を用いると、接ぎ挿し後の生存率が 96.7%で極めて高い。室温保存したものをを用いた場合に比べてカルスの発生及び発根程度が大きく、新梢長及び根長も長い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、1 月 14 日に穂木及び台木を採取・保存し、3 月 26 日に接ぎ挿しを行い、5 月 23 日まで挿し床内で管理した後に、箱から苗を取り出して調査を行った。
2. 保存は、約 1 m に切断した枝約 10 本を 1 束にし、ポリフィルムの両区は新聞紙で包んだ上からポリフィルム（厚さ 0.03mm）一重で包み、ブルーシート区は新聞紙で包まずそのまま包んだ。
3. 3 月末まで保存すると、ポリフィルムで包んだ穂木及び台木の表面にかびが発生しており、特に室温保存のもので多いものの、発芽への悪影響はみられなかった。一方、ブルーシートで包んだものはかびの発生がみられなかったものの、穂木及び台木の表面が乾燥していた。



[具体的データ]

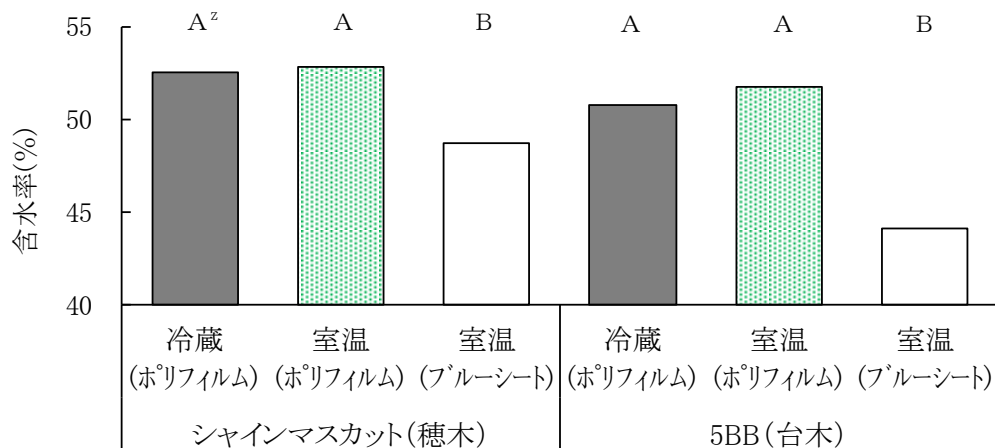


図1 保存方法の違いがブドウ穂木及び台木の含水率に及ぼす影響

注) 保存期間：1月14日～3月26日

^z TukeyのWSD検定により、同一品種内の異英大文字間に1%水準で有意差あり

図2 新聞紙で包んだ上からポリフィルムで包んだ状態

表1 穂木及び台木の保存方法の違いが「シャインマスカット」（台木「5BB」）の挿し床内での生存率及び形質に及ぼす影響

処理区	生存率 (%)	カルス (程度 ^z)	発根 (程度 ^z)	新梢長 (cm)	根長 (cm)
冷蔵(ポリフィルム)	96.7 a	2.5	1.9 a	6.8 a	6.1 a
室温(ポリフィルム)	70.0 b	2.1	0.8 b	3.2 b	2.5 b
室温(ブルーシート)	80.0 ab	2.1	0.9 b	4.4 b	3.1 ab
有意性 ^y	*	ns	**	*	*

注) 調査は挿し床管理(3月26日～5月23日)後に、苗を挿し床から取り出して実施

^z 4段階評価(程度0:無、程度1:不良、程度2:普通、程度3:良好)^y 生存率はTukeyのWSD検定、カルス及び発根の程度はSteel-Dwass法、新梢長及び根長はTukeyのHSD検定により、**は1%水準、*は5%水準で、同列内の異符号間に有意差あり、nsは有意差なし

[その他]

研究課題名：果樹等の幼木期における安定生産技術の開発

(ブドウ苗木の安定生産技術の開発)

予算区分・研究期間：受託（農林水産研究推進事業（委託プロ））・令2～6年度

研究担当者：中島譲、渡辺真帆、荒木有朋、久保田朗晴、上田一輝、安井淑彦

関連情報：1) 試験研究主要成果、[令6 \(31-32、33-34\)](#)